

# 令和4年度学校評価シート（自己評価）

かびら幼稚園  
令和5年3月

## 1、園の教育目標

真実の人生を精一杯生き抜こうという仏教精神に基づき、「心と体の健康づくり」をモットーに楽しい集団生活を通して、社会性を身に付け、調和のとれた人格形成を目指す。

教育目標

1. 素直なこども（無心に手を合わせる気持ちを大切に）
2. 心の暖かいこども（お互いを認め合う。喜びも悲しみも共にする。自然に親しみ、感動する心）
3. 意欲のあるこども（初めてのことに挑戦する。自分に勝つ。正しい勇気を発揮する。）

## 2、具体的な目標や計画

創立以来、培ってきた全園児を全職員で保育、教育し、園児を中心に教職員と父母、地域のボランティアの力もお借りし、本当の意味での教育的な環境を作り上げ、園児たちを育ててきたかびら幼稚園を、現在の社会の変化に対応し、保護者のニーズに応え、そして何よりも子ども達にとって必要なものを与えることができる幼稚園に進化させるための取り組みを推し進めていく。

平成31年4月より幼稚園型認定こども園の認定を受け、両親が共働きであってもかびら幼稚園の教育を望む家庭を受け入れしやすい仕組みを整ったため、環境面、教育面も続けるべきものとかかわるべきものを見極めて、園児と教職員がともに成長できる園を作っていく。コロナ禍の園生活の中で行っている新たな試みについて、良いものはポストコロナの園スタンダードとしていくことを視野にいて、取り組む。教職員の働き方改革、働きやすい環境の整備をすすめていく。

## 3、評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果（※）	取り組み状況
HP、一斉配信メールでの情報発信力の強化、ICT利用の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPのブログによる園生活報告をこまめに行い、園の様子をよく伝えることができた。ブログ更新を各学年の担任が行い、学年ごとの活用をよりきめ細やかに伝えた。</li> <li>・一斉配信メールを活用し、台風や雪の時の対応など迅速に情報発信を行った。ICTシステム「コミュなび」で活用する機能を増やし、保護者並びに園側の利便性を高めた。（出欠申請、登降園管理、バス乗車リスト）</li> </ul>
園内環境の整備・充実・活用	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスにIPADを用意、出欠申請や登降園管理を各クラスで担任が行えるようにした。園バス用のIPADを用意。運行時、出欠申請が都度反映されるバス乗車リストを使い、バスに乗る、乗らないの連絡伝達ミスを防止できるようになった。</li> <li>・各クラスに二酸化炭素モニター、空気清浄・除菌装置を用意。（次年度より本格運用）</li> <li>・安田式遊具追加整備（マット、平均台）</li> </ul>
コロナ禍の行事の取り組み-感染症対策と内容の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対策を取りつつ、形を変えても行事の意義、その過程を大切にしようつとめた。</li> <li>・運動会、リズムあそび会は、全学年で行った。保護者等の人数制限などを行い、または、運動は、演目を精査し、リズムあそび会は、内容</li> </ul>

		を分割し、音楽発表会とリズムあそび会として行い、各行事の開催時間の短縮を図った。拘束時間が長くなりすぎず、園児にとっても、保護者にとっても負担が大きすぎず良かった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業ハイキングは、堂平山に登頂。コースの整備が行われており、コースの内容も適当であると判断した。</li> <li>・マラソン大会、運動公園グラウンドでの実施が復活。</li> </ul>
保育者の資質向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修の受講と新規採用教職員研修の受講。</li> <li>・保育実践協議会での発表園を担当し、当日は、発表者以外の担任も各部会に分かれて参加。それぞれ研修内容については、園にて報告を行い、園全体で情報や問題意識を共有するよう努めた。</li> <li>・オンラインでの研修開催のおかげで、より多くの教職員にとって受講機会が増えた。</li> <li>・保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリストを使い振り返りを行い、不適切な保育に関する理解を深めた。</li> </ul>

## 4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	今年度は、ICTの活用を積極的にすすめて、業務の効率化と伝達ミスの軽減を図るとともに、保護者の利便性を高めることも意識した。今後もICTの活用をすすめ、園児の安全担保、教育保育内容の充実に繋がる業務の効率化に努めたい。コロナ禍での行事のあり方、取り組み方法については、引き続き試行錯誤してきた。保護者の理解と協力もあり、現在の状況下において一定の成果をあげることができたように思う。研修機会の幅が広がり、研修を行うことの意義を感じる事ができた。チェックリストを用いての保育の振り返りは、それぞれの保育者の意識改革にも繋がり、継続した取り組みとしていくことの重要性を感じた。

○結果（※）について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
未就園児教室と園開放子育て支援の充実	コロナ禍の中、未就園児親子に園に来てもらう機会が大きく減ったことの影響は大きい。今後、より多くの親子にかびら幼稚園を知ってもらうために特別感のあるイベント企画など未就園児教室や園開放日へ新規参加者を増やすための工夫を行う。保護者への情報発信ツールであるとともに、広報活動の主体としてHPを活用し、情報を更新していく。園に興味のある未就園児親子を意識したブログもアップする。
安全管理	通園バスの安全な運航管理につとめる。安全な園内の環境整備を行うための点検等について見直しを行い、園庭の樹木の管理（伐採や新規植樹も含む）を行っていく。定期的な保育の振り返りを行うことで、不適切な保育に対する意識を高め、虐待等に繋がるような行為を未然にふせぐ。